

吉里吉里中学校訪問学習の実施計画

湯田中学校 2学年

- 1 ねらい
 - (1)本校の復興教育の中心をなすものとして、被災地の大槌町の現状を知る。
 - (2)吉里吉里中学校を訪問し、生徒会で取り組んだ募金を渡し、生徒との交流を通してお互いの絆を深める。
- 2 訪問期日
平成25年11月12日(火)
- 3 参加者
引率者
校長 鈴木秀行 2学年担任 白井俊二 2学年副担任 真嶋瑞穂
生徒 男子11名 女子12名
参加人数 引率者3名 生徒23名 計26名
- 4 交通手段
町スクールバス
- 5 日程

7:40	学校集合
7:50	出発
9:30	トイレ休憩(遠野 風の丘)
11:00	おらが大槌夢広場着 *避難経路を体験しながら震災語り部さんの話を聞く
12:10	昼食(おらが大槌夢広場駐車場)
12:40	おらが大槌夢広場駐車場出発
12:50	吉里吉里中学校着
13:15~14:45	交流(開始式・部活動交流会)
15:00	吉里吉里中学校発
16:30	トイレ休憩(遠野 風の丘))
18:00	学校着・解散
- 6 持ち物等 弁当、水分、上履き、筆記用具、防寒着、着替え、タオル、雨具
服装：学校指定ジャージ かばん：スクールザック
- 7 その他(お願い)
 - (1)移動距離・時間共に長いので、前日および当日朝の健康状態には充分配慮願います。なお、体調が万全でない場合は担任(湯田中・82-3105)までご連絡いただきますようお願いいたします。
 - (2)乗り物酔いしやすい生徒については、事前に酔い止めの薬を服用させて下さい。
 - (3)学校到着は、平常利用しているバス等には間に合わない時刻となります。恐れ入りますが、下校時のお迎えや交通手段の確認をお願いいたします。

拝啓

西牟婁町では、もうたくさんのお金が降り積もっております。
 大槌町の様子は、いかに好ましくもありません。
 さて、先日はお忙しいところ、私からの被災地学習のたぐい
 お時間をいただき、ありがとうございます。神谷さんに温か
 く迎えていただき、津波のことや被災地の様子を詳しく知り
 ることができました。
 実際に大槌町を訪問して、衝撃を受けました。旧
 大槌町役場を見ても、神谷さんのお話を聞き、被災地の状
 況が思っていたよりひどく、私もとてつらくなりました。
 三〇人が大槌町でなくなり、まだそのうちの三十分の一
 が行方不明。二〇キロメートルで押寄せるところ高津波。
 津波と共に襲ってくる防災。どれほど信じることができません。
 大槌町の皆さんが、この津波からどういった思いで逃げたのか、
 想像するのにも難しかったです。私は、お年寄りの手をつないで

神谷 未生様

湯田中学校 二年A組 高橋 菜々子

平成二十五年十一月十五日

敬具

津波から逃げるか、手を止めてしまおうか、旧大槌町役場を
 取り壊すか、取り壊さずにどうするかを考えた。でも、どう
 しても選ぶことが出来ず、断念。それを決断した被災者
 の皆さんは、どうも辛か、だと思えます。復興が遅れている
 という現状に私もとてつらくなりました。それを聞いて、
 本当に「どうも被災者皆さんに役に立ちたい」という気
 持ちは強く持ちました。これから、帰れる家、ふるさと
 があること、支えてくれる家族、友達がいること、金があること
 に感謝して生きていきたいです。本当にありがとうございます。
 このからもお体に気を付けてお仕事頑張ってください。



湯田中だより

〈学校目標〉 より高く よりたくましく より豊かに

平成 25 年 11 月 19 日 (火)

第 18 号

西和賀町立湯田中学校

TEL 82-3105

FAX 81-1010

被災地訪問学習『吉里吉里中との部活動交流』 2年生が吉里中1・2年生と共に笑顔で活動!!

県校長会では被災地支援として内陸部と沿岸部をタイアップさせる横軸連携を推進してきました。本校と沢内中は、大槌町立吉里吉里中学校を支援しています。昨年度に続き、2年生が代表して11月12日に吉里中にて交流を行ってきました。



大槌町役場前で
黙祷

1 語り部ボランティア上谷さんのお話

一般社団法人「おらが大槌夢広場」の上谷実央さんの案内で大槌町内を見て回りました。まず、町長をはじめ多くの職員が亡くなった大槌町役場に移動し、祭壇の前で黙祷を捧げました。役場については玄関のみを残して取り壊す方向で検討中であるとのことでした。高さ6.5mの堤防はありましたが、それを遙かに超える津波が来たことを建物に残された傷跡から知ることができました。以前、公園であった場所に昭和8年の昭和三陸津波後に建てられた石碑がありました。「地震が来たら ①逃げろ ②津波が来る ③津波が来た場所には家を建てるな」と刻んでありました。しかし、いつしか町民はこの石碑を見向きもしなくなり浸水地域にはたくさんの家が建ち並ぶようになってしまった、と無念さを語っていました。この反省に立ち、大槌高校の生徒は木碑にして東日本大震災を後世に伝えようと努力しているそうです。



大槌では火災が発生し多くのものを焼失させたそうです。「直接、見たことはないが戦後の焼け跡のようだった。いまだに400人程が行方不明と極端に多いのはそのせいかも。お墓も波で倒されたものだけでなく、熱で割れたものが多い。」「高台に続く避難路となった墓地の斜面は急で高齢者には厳しく、この場所で『引いていた手を離すかどうか』多くの家族が生死の決断を迫られた。」と話してくれました。息を切らしながら当日の恐怖や不安を思い返すのでした。生徒は城山公園から街並みを見下ろしました。変わり果てた姿に皆息を飲み、改めて被害の大きさや津波の恐ろしさを感じていたようでした。



津波到達地点の
石碑

2 吉里吉里中学校との部活動交流

5、6校時を利用して交流することにしており、まず、吉里中1・2年生と開始式（進行は高橋大地くん）を行いました。代表（湯田中は高橋菜々子さん）が挨拶を交わし、集めた募金を預かってきた沢内中の分と併せて吉里中の代表に手渡しました。

その後、野球部は外にある仮設グラウンドで、男女バレー部は体育館で、テニス部と音楽部はホールで、男女卓球部は旧体育館で部毎に分かれて合同練習に入りました。

湯田を出るときは雪が舞い、積雪 15cm 程ありましたが、吉里吉里の風は冷たかったのですが青空でした。野球部の生徒は土の上で練習ができるとうれしそうに笑顔でボールの感触を楽しんでいました。バレー部は吉里中の顧問の先生の指導で練習メニューを一緒にこなしていました。お互いにちょっと表情が硬かったように思いました。テニス部は吉里中にはないので音楽部との交流となりました。フルートやクラリネットを手に持ち、吉里中生に教えてもらって実際に音を出していました。後半は吉里中生がラケットを持ってボールを打ってもらいました。大変楽しんでたように思いました。卓球については学校から離れた所での活動で、残念ながら見学することはできませんでしたが、羽柴あかりさんは「よかった。勉強になった。」と話していました。吉里中の男女卓球部は県新人大会に出場予定ということでした。

2年生は、次期リーダーとしてしっかり交流を行い、その務めを果たすことができました。



ありがとうございました！ PTA冬支度作業&講演会

11/9(土)にPTAによる環境整備作業が行われました。51名の参加を得て、防球ネットの巻き上げ、フェンスの撤去、樹木の雪吊り、校舎の窓ふきなどを手際よく進めていただきました。1時間足らずで冬への備えを終えることができました。



お陰様で、翌週の積雪に間に合わせることができました。心より感謝申し上げます。また、終了後には講演会が開催されました。全校生徒と保護者37名、そして、細井町長さんも駆けつけて下さいました。「自信を持って決断する力を育む」と題して、西和賀高校の平野建先生にエネルギーに熱い講演をしていただきました。生徒にとってもわかりやすい内容で、これからの学校生活にすぐ役立つものでした。終了後、校長室で高橋会長さんが「とってもよかった。こういう話を聴きたかった。」と平野先生と熱く握手を交わしていました。ありがとうございました。



<湯田中生のかがやき>

■英語検定(3級1次合格者は2次試験の結果待ちです)

- 4級 高橋大輝、高橋佐和(以上3A)
高橋紗也佳、高橋菜々子、羽柴あかり、羽柴黎
(以上2A)
高橋佑汰(1A)
- 5級 高橋佑汰、高橋和優、高橋優奈、藤原由佳子
(以上1A)

◆いわて希望塾 11/2~4◆ 高橋捷之くん(2A)が参加

国立岩手山青少年交流の家を会場に県内各地の中学生が集い、地域づくりを担う人材を育むために開催されたものです。本校からは高橋捷之くんが学校代表として参加してきました。達増岩手県知事やアンダーエイジの講話、様々なグループワークが行われた、と報告がありました。

<感想>県内のいろいろな友達ができ楽しかったです。また、今後は周りの人の為に行動しなければならないということを学びました。